



地球の悲鳴が聞こえてきませんか 今、そこにある気象危機



- 昨年は、台風、大雨、洪水による甚大な被害が日本各地で相次いだ。
- 昨年12月スペインで開催されたCOP25（第25回気候変動枠組み条約締結国会議）では、ドイツの環境NGO「ジャーマンウォッチ」が、2018年における気象災害の影響が大きかった国のランキングを発表した。そこで最大の被害国とされたのが日本。その理由として、西日本豪雨、猛暑、台風21号による被害総額が少なくとも約3兆8,920億円にのぼったことを挙げている。
- 世界各地でも、熱波、洪水、干ばつ、そしてウイルスによる感染症が多発している。
- これらは、地球温暖化が引き起こした異常気象の影響によるものと見られている。

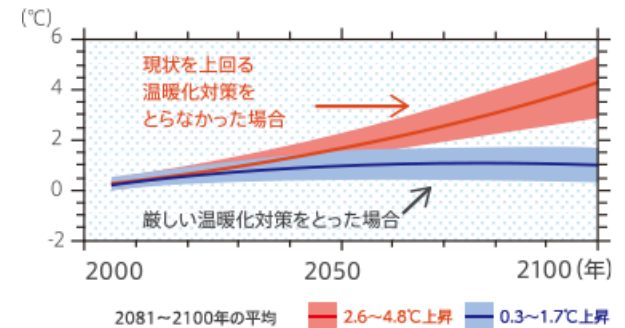
世界の取組状況

- ◆ 昨年のCOP25では、今年から温暖化防止のための世界的な取組みであるパリ協定が始動するに当たり、CO2等温室効果ガスの大幅な削減について議論されたが、各国の利害が対立してまとまらなかった。
- ◆ 二酸化炭素(CO2)の排出量が中国に次いで第二位の米国は、パリ協定離脱の手続きに入った。
- ◆ 我が国は最大の被害国であるのに、政府は現実から目を背け、その取組みが不十分。

* 環境NGOで作る「気象行動ネットワーク」が、初めて設定した「化石賞」は、温暖化交渉で後ろ向きとされる国が選ばれる不名誉な賞。その「化石賞」を日本は二度も受けている。

◆ 21世紀末の地球は？ (将来予測)
 IPCC第5次報告書によると、
 * 20世紀末ころ(1986年～2005年)と比べて、有効な温暖化対策を取らなかった場合、21世紀末(2081年～2100年)の世界の平均気温は、2.6～4.8℃上昇(赤色の帯)する可能性が高くなる。
 * 厳しい温暖化対策をとった場合でも0.3～1.7℃上昇(青色の帯)する可能性が高くなる。
 * さらに、平均海面水位は、最大82cm上昇する可能性が高いと予測されている。

20世紀末ころからの平均気温の上昇



◇悲観的なニュースばかりではない。

* 昨年9月の国連気候行動サミットでの演説が日本でも話題となったスウェーデンの環境活動家のグレタ・トゥーンベリさん(16歳)に触発され、日本でも若者達が声を上げ始めている。
昨年11月29日、新宿で「グローバル気候マーチ」が行われ、若者を中心に約600人がデモ行進を行った。

デモ主催団体の一つ「Fridays for Future Tokyo」のメンバーの高校生は「(温暖化対策に後ろ向きな)政治家や経済界トップの皆さんは、温暖化の影響がより深刻になる未来には、お亡くなりになられているでしょうから、危機感がないのかも知れませんが、僕たち若者はこれからの何十年もの人生が奪われようとしています。これは不公平だと思います」と語った。



一温暖化を促進させてきた年配の世代のツケを、子どもや若者たちが、自身の生活や命で支払うことになることは、おかしいのではないかとトゥーンベリさんが主張する「気候正義」は、日本の若者たちにとっても、他人事ではない。

◇この地球を守るため、私たちにもできることがある。節電、家庭ゴミの減量、マイバッグ持参しての買い物、不急不要な車での外出を控える等々…
◇一人ひとりの取組みは小さくても、それが積み重なると、やがて温暖化防止の大きなうねりとなる。

Q.地球温暖化について、聖書の視点は何か？

A. 1.創世記第1章で、神は人類に対して被造世界の統治・管理を委ねてくださった。

* 私たちクリスチャンは、そうでない人たち以上に、この地球をどのようにして守り、維持可能な経済活動や生産活動をしていくのかを考えなければならぬ義務を与えられている。

2.ロマ書8章19～22節にあるように、被造世界がうめいている。

* アダムが罪を犯して以降、被造世界がうめいている状態が、人類の自然界搾取と並行して、更に拡大している。
* 被造世界のうめきはどのように解決されるのか。それは、最終的にはメシアの再臨と千年王国の成就によって解決される。
* 希望を持ちながら、現実の問題に対応していくこと、これが地球温暖化に対するクリスチャンの姿勢である。

被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。
ロマ8:19～22

出典:2019/12/16クリスマスメッセージ「2019年の世界を読み解く」ほか